

知的障害教育部門 小学部

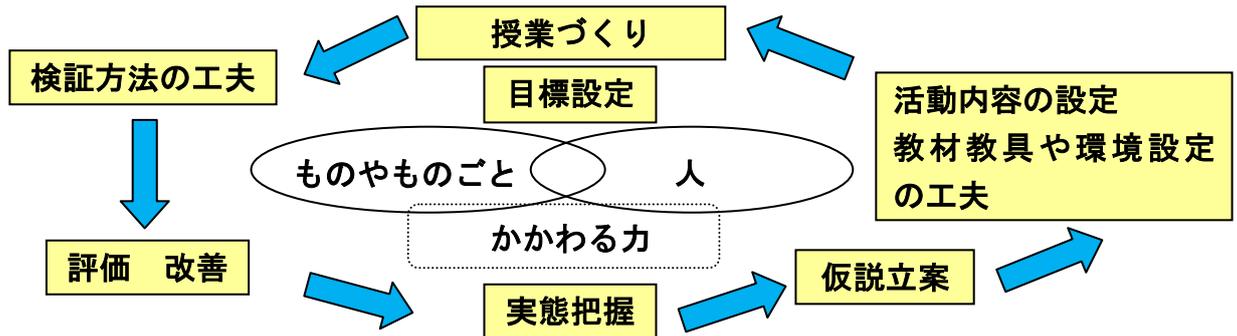
研究テーマ

「児童が自ら考え行動する力を育む授業づくり」
～ものやものごと、人とのかかわりを大切に～

1 研究の目的と方法

自ら考え行動する力

=することがわかって活動に参加する
=自分の気持ちを表情やしぐさ、ことば等で表現する



【学部研究仮説】

適切な目標や活動内容を設定し、教材教具や環境設定の工夫を行うことで、児童の「ものやものごとにかかわる力」「人とかわる力」が育ち、自ら考え行動する主体的な姿が授業や学校生活の中で増えるであろう。

2 研究の実際（5・6年グループ）

（1）対象児童の実態等 と グループの研究仮説

【児童Aの実態】（5年生）

- ・一文字を提示し、読める平仮名の数18文字。（6月）
- ・かるたのイラストを見て、「あいすくりーむ」「うめぼし」と言う。その他は真似て単語を言う。
- ・自分の名前は視写する。その他の平仮名は、なぞり書き。

【主体的な姿】

- ①平仮名を読もうとしたり、書こうとしたりする。
- ②読み上げをよく聞いたり、札をよく見たりして探そうとする。

【手だて】

- ・読み札がリズムのよい「あっちゃんあがつく」のかるたを使う。
- ・「配膳式かるた」にし、自分の机上にある札を確実に取ることができるルールにする。
- ・自分たちで考えた言葉を取り上げ、かるたを書いて作る。

【グループ研究仮説】

「配膳式かるた」にし、自分の分を確実に取ることができるようにすることや、リズムよく読めて、身近な食べ物を扱ったかるたを用いることで、意欲が高まり自信をもつことができるだろう。それに伴って、読み書きできる文字数が増えたり、語彙数が増えたりするであろう。

【検証方法】

1. 読み書きできる文字数を定期的に平仮名50音表に記録する。
2. かるたを取ったり、読んだり、書いたりする様子を定期的にビデオ撮影し、札を取る様子や発する語彙を記録する。

(2) 実践

手だて	写真	説明
「あっちゃんあがつく」のかるたの使用		<ul style="list-style-type: none"> ・読み札は、「あっちゃん あがつく あいすくりーむ」等のようにリズムがよい。 ・取り札は、児童が親しみをもちやすい食べ物や遊具の絵になっている。
配膳式かるた ※自分の机の上に5枚程のかるたを分けて並べ（配膳し）、その札のみ取るかるた		<ul style="list-style-type: none"> ・個人差があってもどの児童も必ず札を取ることができる。枚数が少なくなるので、机の上に集中でき、終わりの見通しがもちやすい。
自分たちで考えた言葉のかるたづくり		<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちで考えることで、新たな活動への意欲に結びつけていき、平仮名を書く活動につなげる。
<ul style="list-style-type: none"> ・テーマ曲を固定 ・ハイタッチ ・くす板 ※くす玉のように紐を引っ張るとおめでとうの文字が表示される板		<ul style="list-style-type: none"> ・かるたを始める前に曲を流し、開始の合図にする。 ・次への意欲を高めるために、取れた喜びや達成感を味わえるようにする。

(3) 結果と考察・課題

【結果】 ・一文字を提示し、読める平仮名の文字数

18文字(6月上旬)→30文字(7月下旬)→33文字(10月中旬)

・新しいかるたの読み札をなぞり書きした後、その字を読んでいた。

【考察】 ・取り札を確実に取ることでできる配膳式かるたという方式を取り入れたことで、意欲的に取り組む姿が増えたと考える。

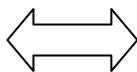
・かるたを行うことで、文字に親しむ機会が増え、読める文字数や語彙数が増えたと考える。

【課題】 ・同じ語頭で違う言葉や食べ物以外の身近な言葉、児童が発した言葉をより多く取り上げ、更に語彙数を増やしていくこと。

3 研究の成果と課題

【成果】

自ら考え行動する力を
育むことができた



- 学習集団の授業のねらいや内容の適切な設定ができた
- 教材教具、活動内容、検証方法の工夫ができた
- 児童同士をつなぐ教師の支援ができた

【課題】

- 3年間の実践で得た有効な手だてを学校生活全体に拡げる
- より効率的で妥当性のある検証方法を工夫する